

平成28年3月10日

立川市議会

議長 須崎 八朗 殿

立川市議会文教委員会

委員長 安東 太郎

## 行政視察報告

このことについて、下記のとおり報告いたします。

### 記

#### 1 視察月日

平成27年11月4日（水）から平成27年11月6日（金）の2泊3日

#### 2 視察地及び視察事項

視察都市名	視 察 事 項
福岡県大牟田市	中学校給食について
兵庫県伊丹市	「安全・安心見守りカメラ」の導入について
滋賀県大津市	いじめ防止の取り組みについて

#### 3 視察の概要及び所感

別紙のとおり

## 平成27年立川市議会文教委員会 行政視察報告書

○視察日程：平成27年（2015）11月4日（水）

14時半から16時半

○視察地 福岡県大牟田市

○視察場所 大牟田市中学校給食センター

○視察内容 中学校給食について

○視察メンバー

委員長：安東太郎

副委員長：瀬 順弘

委員：中町 聡

若木早苗

木原 宏

高口靖彦

梅田春生

議会事務局：井ノ口敦哉

大牟田市は、福岡県の南部に位置しており、三池山と有明海に抱かれた人口12万の炭鉱で栄えた都市である。折しも三池炭鉱関連施設が世界遺産に登録されたことから、街は盛り上がりを見せていた。

西鉄福岡駅から列車にゆられること一時間。大牟田駅に降り立った一行は、直接視察目的地である大牟田市中学校給食センターへ向かった。

駅からほどなくして到着したセンターは、本年4月に開設したばかりの真新しい施設である。まずは、2階の見学エリアから1階の作業施設見学を行った。調理は終了しており、ちょうど各学校から食器・食缶が戻って来たところで、残飯の量には各校で差があるようだった。調理作業・洗浄作業の流れをご説明頂いた。

次に、研修室に移動して大牟田市教育委員会事務局の学務課給食担当課長兼中学校給食センター所長の中本潔様より概要説明を受けた。

次に、木下主査よりパワーポイントを使用しての事業説明を受けた。話の中では、特に以下のような補足説明があった。トラック4台には中学生の作品の絵が描かれている。メホス(株)に委託している。和え物が一番食中毒を起こしやすいので特に分けている。献立反省委員会を開き、内容・物資について意見交換を行っている。学校給食法で土日も観察記録をすると厳しくなっている。米飯は週4回、パン1回。放送で給食指導資料を読む。洗浄は、1つに20個、重いという声が学校からはある。アレルギー対応は、除去食のみ。代替食はしていない。代わりに、家庭から対応の細かい流れを面談で行う。アレルギー食は受け渡しチェック表で毎日確認する。給食がおいしくなければ、食育にならない。

続いて、視察資料にての説明を受けた。話の中では、以下のような補足説明があった。パブコメでは自校式がいい、アレルギー対応をしっかりとという声があった。久留米市に視察に行った。4区で業者選定したが、結果的には一社になった。受け入れ施設が狭いとの声が多くある。健康被害予防事業助成金の緑化補助を行った。食材調達の容易度は、1,500・1,500になったので結果的にはクリアされた。配送時間は、食缶便・食器便を分けたので短くなった。配膳の

業務委託、11時～14時半と短時間で受託が少ないのではないかと心配したが、障害者団体に働きかけてお願いした。カレーが人気、ルーから手づくりしている。栗ごはんは、今の子は甘いものにご飯で人气が低い。保護者アンケートは未実施。生徒は、学校間で残差はあるが概ねおいしいとの反応。学校から開始後、先生方も戸惑い、様々なマニュアルを用意していたが、子供より先生方が戸惑った。細かな事まで質問が出て、校長会で取りまとめて落ち着いたのが、連休明け。調理ではなくその他の事。その後はスムーズ、開始時は苦労があると思う。平成23年から苦労があったが、おいしいと言ってもらったのが感激。初めは冷たい、作り手の顔が見えないとマイナスのイメージだった。

説明を受けて、2名の委員より質問が出た。

Q 若木 センター開設の地元の理解はどうだったのか。

A 公共施設を住宅地に建てるので、校長会、建築審査会の承認を経て、市の方針を決めて住民説明会を2回行った。もともとは小学校の敷地として1万平米あり、半分を売って市の財源として34軒建った。説明会では、騒音・臭い・人の出入り・どんな人が出入りするかなど質問を受けた。1/3には天領校区のコミュニティーセンターを開設した。地域の方には試食会も一度来て頂いた。一日も早く中学校給食をやってほしいとの声を受けてのものである事を説明した。

市民のセンターに対する理解を導く為、基礎調査から行って案とし、検討会議で方針を出すと、流れの中で意見集約を行って大変な作業だったが理解が深まった。

Q 木原 今まではどうだったのか。

A ミルク給食。校内の売店買う生徒もいて、栄養面の心配があった。

Q 木原 この時期は、母親が作るべきとの声あったか。

A 中学校の時ぐらい弁当で、体調など解るとの声もあったが、今は圧倒的に共働き。

A 市長のマニフェストに載った。過疎債の時期があったのでラッキーだった。

資材高騰などで補正を組まざるを得なかった。財政当局からは、少子化の進む中で余り投資はとの声もあり、かなり削られた。

Q 木原 中学校9校、配送時間に問題はないのか。

A 小学校はすべて自校式。始めは、真ん中の地区を考えたが、平成28年4月再編スタートの為、今の場所になった。

最後に、委員長より、市長選挙のお忙しい中に視察を受け入れて頂き感謝を申し上げます。立川でも8月に市長選挙が行われ、その中で中学校給食の実施を掲げて再選している経緯もあり、こちらを視察させていただいた。今回の視察で得たものを立川の子供たちの食育の充実に役立たせてゆきたいと御礼の挨拶を申し上げて視察を締めくくった。

この大牟田市での視察内容を、委員会での議論を通じ、今後の文教行政において大いに反映させてゆきたい。

結びに、お忙しい中時間をいただき率直にお話し頂いた、大牟田市教育委員会事務局の皆さま、送迎などでお世話になった議会事務局の皆さまに御礼申し上げます。

以上

文責：安東太郎

## 平成 27 年度立川市議会文教委員会行政視察報告書

日 時：平成 27 年 11 月 5 日（木） 13:30～15:00

視 察 先：伊丹市役所（兵庫県）

視察目的：安全・安心見守りカメラの導入について

参 加 者：安東太郎（委員長）、瀬 順弘（副委員長）、

中町 聡、若木早苗、木原 宏、高口靖彦、梅田春生 以上 7 名

議会事務局

### （1）伊丹市の概要

- ・兵庫県南東部に位置する
- ・大阪市、神戸市などへ便利なベッドタウンとして発展
- ・人口は約 20 万人（平成 27 年 4 月 1 日現在）
- ・市内の小学校数は 17 校

### （2）事業内容

#### 1. 事業の目的

子どもや高齢者等を見守り、安全・安心のまちづくりを推進する。

事件事故の抑止及び早期解決、自然災害の現状把握と減災対策、行方不明者の捜索、交通量調査など市の施策のための基礎資料調査など。

#### 2. 事業の内容

市内に 1,000 台のカメラを整備。950 台は通学路を中心とした道路や公園、広場へ整備し、犯罪の抑止や事件事故の早期解決を図る。50 台は河川や中心市街地等に整備し、大雨等災害発生時の河川監視等の災害対策やその検証に役立てる。

肖像権やプライバシー保護の配慮から、カメラ設置に関する条例を本年 9 月に施行、警察署と協定を締結し市と警察署の役割を明確化している。

設置に向け、地域懇談会で市長が直接カメラ設置の概要を説明して市民の意向を聞き、パブリックコメント、地元説明会を実施。設置場所についてはワークショップを開催して地域で決定している。

カメラの設置と合わせてビーコンを活用し、子どもや高齢者の見守りシステムを確立する。ビーコンを導入することで、スマートフォンアプリから迷子・徘徊防止や、見守り体制が更に向上される。

導入費用はや 4 億 3,800 万円、運用コストは年間約 2,800 万円。カメラの設置だけでは対象とならないが見守り機能を付加することで地方創生の交付金を活用。

見守りサービスの運営は民間事業者で、利用者は初期登録費用 2,572 円、月額使用料 432 円で利用することができる。兄弟姉妹がいる場合は割引や免除などの制度もある。平成 27 年度は市内 3 小学校区で各校区 50 台、防災用の 50 台で計 200 台を設置し、平成 29 年 3 月末には市内全域 1,000 台の設置を完了させる予定。

### (3) 質疑応答

Q. 導入に際しての課題は？

A. カメラは電柱に共架するが、台数が多く申請受理の手続きが膨大となることから関西電力に申請の際手数料を支払うこととなった。また、ワークショップで決定した設置場所も、電柱の他の共架状況、電線の位置や向きなどで、実際に申請しても許可となるのは 4 割程度。

Q. カメラの録画データの管理は？

A. カメラ本体に SD カードを内蔵し、約 7 日分を常に上書きしながら記録している。ダウンロードの必要（捜査機関への提供など）がある時は、LTE 回線を利用して市役所から必要部分の映像を取り出すことができる。設置台数が多いため、現場で映像を取り出すことは不便なため回線を利用することとした。防災用カメラについてはリアルタイムで監視する場合も多いため、FTTP 回線を使用している。両回線は映像の取り出しのみでなく、カメラやビーコン受信器の稼働チェックにも使用している。

Q. ビーコンを使用することで、ストーカーなど悪用される心配はないのか？

A. 悪用を防止するため当面の利用は子ども、高齢者に限定する。

Q. システム構築には専門業者が入ったのか？

A. 当初はカメラ設置のみで考えていたが、業者の提案を検討していくなかで様々なアイデアが出てきたため、一緒に構築する形となった。

### (4) 所感

当初は通学路の安全確保としてカメラのみ設置の予定であったが、業者の提案を検討した結果、ビーコン設置や活用のためのアプリ開発など、より一層安全・安心の見守り体制の構築に繋がったとの話であった。事業について固定的な視点ではなく、提案内容や他の事例を研究し、より活用の広がる体制作りをされたことはとても関心させられた。今回の視察内容を今後本市にも生かしていきたい。

以上

<別途資料あり>

## 平成 27 年度立川市議会文教委員会行政視察報告書

日 時：平成 27 年 11 月 6 日（金） 10:00～11:20

視 察 先：大津市役所（滋賀県）

視察目的：いじめ防止の取り組みについて

参 加 者：安東太郎（委員長）、瀬 順弘（副委員長）、  
中町 聡、若木早苗、木原 宏、高口靖彦、梅田春生 以上 7 名  
議会事務局

### （1）大津市の概要

- ・滋賀県西部で、琵琶湖西南部に位置する
- ・市政施行は明治 31 年と 100 年以上の歴史をもつ
- ・人口は約 34 万人（平成 27 年 4 月 1 日現在）
- ・市内には小学校 55 校、中学校 18 校がある

### （2）事業内容

#### 1. 事業の目的

平成 23 年の市内中学生の自殺を契機に、悲惨な事件を繰り返さないよういじめ防止について様々な施策を行っている。

いじめへの対応については、教育委員会とは別に市長部局に平成 25 年にいじめ対策推進室が設置された。

#### 2. 事業の内容

いじめ対策推進室においては、「大津市いじめ防止市民会議の設置」「いじめの防止に関する行動計画の策定」「いじめ防止啓発月間の取り組み」「相談体制の整備及び関係機関との連携」「大津の子どもをいじめから守る委員会設置」「インターネット等によるいじめ対策」などが行われている。

推進室の職員は行政職、嘱託職員、臨時職員、兼務職員で、相談件数が多いことから H27 年度からは相談調査専門員である嘱託職員を 1 名増員した。

相談体制は、常駐の相談調査専門員が、フリーダイヤルで直接相談を受ける。フリーダイヤルは平日の 9 時から 17 時であったが、17 時以降にも相談したいとの要望も多く、毎週 1 日は夜 8 時まで、また月に 1 回は夕方に巡回相談も実施している。

大津の子どもをいじめから守る委員会は条例の規定に基づき設置され、臨床心理士、



教育学などの学識経験者、弁護士などで組織されている。委員会はほぼ毎週開催され、昨年度の実績は46回、1回の委員会で7～8件の案件が協議・検討されている。

### (3) 質疑応答

Q. いじめをできるだけ早く発見・認知するには？

A. 教員が常にアンテナを敏感にして子ども達に接する必要がある。そのため疑いの段階からしっかりと確認をするようにしており、今の大津市内の教員は相当な意識をもっていじめ防止に取り組んでいる。

Q. 対策推進室を教育委員会ではなく市長部局へ設置した効果は？

A. 相談する子ども達の中には学校や先生に知られたくないと思っている子もおり、教育委員会ではないことから相談しやすい状況となっている。

Q. 携帯電話・インターネット利用の使用ルールは決めるのか？

A. それぞれの家庭の状況も異なることから一律にルールを決めてもあまり意味がないと考えている。そのためPTAを中心に検討していただくことで、できるだけ実効性のあるルール作りをしたい。

### (4) 所感

悲惨な出来事の教訓をしっかりと今後の子ども達のために残そうとの行政・教育委員会の熱意を感じた。特に、教育委員会ではいじめ対策担当教員を専任配置し、担任を持たない教員がきめ細かに子ども達の状況を把握する体制ができている。アンケートの実施や相談窓口の設置、相談体制の充実など、子ども達に対して様々な手を差し伸べ、子どもたちが安心して暮らせる取り組みは本市においても大変参考になるものであった。

以上

<別途資料あり>